



詩篇72篇

詩72: - ダビデの子ヨシヤ

- :20 24:23: エッサイの子ダビデの最後のことば
- :1-4 歌 義をもち治める王、太陽の光、両地。
- :5-8
- :17,19 1歴14:17 ダビデの名が全地に
- 1歴16: (詩105.96.106)
- :18,9-11,19 歌 奇しいわざ×3、主にささげば、御名の栄光、主にひかひかせ、天地海、ほむべきかな、イスラエルの神、アーメン
- :12-19
- :9-11 1歴18: 異邦の王がみづきおとすに、エッサイの子ヨシヤ
- :3,7 1歴22:9 安息、サドム、民に平和をさす。
- :1-4 22:12 主があなたに恩恵を分けおとす、主の律法を守り。
- :18-19 29:10- 歌 とこしえに、ほむべきかな、イスラエルの神、主、偉大、力、栄え、栄光、尊厳、富、養はれよ、その栄光の御名はほむべきかな、20 民の応答。
- :1-4 2歴1:10- 民をさばく知恵と知識をさすおとす。
- :1-4 2:11 ヨシヤ王が「主が民を愛しおとす、王をさすおとす」
- :1-19 9: シバの女王、ささげば、主はほむべきかな、民を愛しおとす、公正と正義を行はせ。

2サムエル

24:22: ダビデの歌 (Ps18)
23: エッサイの子ダビデの最後のことば、
イスラエルの栄光、太陽、契約の恩恵、最後のことば、
(13)12:1-5 ダビデが死する前に
強かかれ、律法を守らる

歴代志上1.2. - エズラ、ネハミヤ

- 1歴 1:-9: 25: バビロン、レバンの系図
- ダビデ { 10:-14: vsバビロン、人々、勇士、名が全地に、
- 15:-17: 天幕、神の箱、歌、契約、父子、
- ダビデ { 18:-21: vsバビロン、国を王、みづき、勇士、人口調査、
- 22: 主の宮、父子、
- ヨシヤ { 23:-27: レバ、アロンの子、歌、ツレハ、門衛、分団、軍
- 28:-29: ダビデが死する前、父子、神の箱、仕捧者
- 2歴 1: ヨシヤの夢、知恵をさす。
- ヨシヤ { 2:-4: 神船を運ばせおとす
- 5:-7: 宮が完成して、契約の箱を安置
- 8:-9: 町を築き、シバの女王が来る。

詩篇72篇を分析して、第2巻の終わりのアンカーになっているところですね。「ほむべきかな。神、主、イスラエルの神。ただ、主ひとり、奇しいわざを行う。とこしえに、ほむべきかな。その栄光の御名。その栄光は地に満ちわたれ。アーメン。アーメン。エッサイの子ダビデの祈りは終わった。」

ダビデの子ヨシヤ

- 23: エッサイの子ダビデの最後のことば
- 歌 義をもち治める王、太陽の光、両地。
- 14:17 ダビデの名が全地に
- 16: (詩105.96.106)
- 歌 奇しいわざ×3、主にささげば、御名の栄光、主にひかひかせ、天地海、

2サムエル

24:22: ダビデの歌 (Ps18)
23: エッサイの子ダビデの最後のことば、
イスラエルの栄光、太陽、契約の恩恵、最後のことば、
(13)12:1-5 ダビデが死する前に
強かかれ、律法を守らる

歴代志上1.2. - エズラ、ネハミヤ

- 1歴 1:-9: 25: バビロン
- ダビデ { 10:-14: vsバビロン、人々
- 15:-17: 天幕、神の箱
- ダビデ { 18:-21: vsバビロン、国を
- 22: 主の宮、父子、

「エッサイの子ダビデの祈りは終わった」ということを聞いたら思い出さなければいけないだろうというところは、第2サムエル23章。第2サムエルの終わりのところ (22章) は、18篇が入っている「主は岩」という詩篇です。それで23章は、それに続いている祝福のことばです。「これはダビデの最後のことばである。エッサイの子ダビデの告

げたことば。高くあげられた者、ヤコブの神に油そそがれた者の告げたことば。イスラエルの美しい歌。」と言って23章に歌が書いてあります。

これは、申命記の最後のモーセの歌、モーセの祝福のことばに似ています。次の第1列王記のところで、「強くあれ、雄々しくあれ」、これは死ぬ前にということで、これも最後のことばになりますけれど、特にここ(第2サムエル23章)にモーセの最後の歌のように、ダビデの最後の歌が記録されています。

詩72: - (ダビデ+ソロモン)	2サムエル
: 20 2サム23: エッサイの子ダビデの最後のことば	:
: 1-4 歌 義をもつて治める王。	2サム22: ダビデの歌 (Ps18)
: 5-8 太陽の光、両、地。	23: エッサイの子ダビデの最後のことば。
: 17, 19 1歴14:17 ダビデの名が全地に	・イスラエルの岩 ・朝の光、日、雨 ・契約の忠実 ・神のさばき
1歴16: (詩105.9b.106)	(1サム12:1-5 ダビデ死ぬ前に 強(あれ、律法は守らん)
: 18, 9-11, 19 歌 奇いゆざ×3 主にささげよ。	
御名の栄光、主にひれ伏せ、天地海。	

そこには(第2サムエル23:3～)、「義をもって人を治める者、神を恐れて治める者、太陽の上る朝の光、雲一つない朝の光のようだ…その栄光が照り輝かされている。その契約はとこしえに。」そして、6節7節で、「よこしまな者、敵は打ち砕かれる」というような内容になっています。これを覚えていなければいけない、もしくは覚えているはずのソロモンによる72篇の終わりのところです。

その最後のことばを見ると、72篇は公正な裁き、義をもって裁く、その王を与えてください、その公正の知恵を王に与えてくださいというところで始まり、その栄光が全地に満たされているというのが72篇ですので、このエッサイの子ダビデの最後のことばということを思い出すように、72篇の最後にもエッサイの子ダビデの祈りの終わりということが書かれているのだと思います。

スエラ

歴代誌1.2 - エズラ、ネハミヤ

14:22: ダビデの歌 (Ps18)

23: イサヤの子ダビデの

最後のこぼし

・イスラエルの岩

・朝の光、日、雨

・契約の忠実

・神のこぼし

31:2-15: ダビデが死ぬ前に
強(あはれ、律法を守らん)

ヤ

去る守る

主の神、主

・蒼いのは主のもの

・20 民の応答

1歴 1:-9: 25: ベニヤミン、レビの系図

ダビデ { 10:-14: vsベリヤ、人々、勇士、名が全地に、
15:-17: 天幕、神の箱、歌、契約、父子

ダビデ { 18:-21: vsベリヤ、国王、みづぎ、勇士、人口調査、
22: 主の宮、父子

ソロモン { 23:-27: レビ、ソロモンの歌、洗い、門衛、分国軍
28:-29: ダビデからソロモンへ、父子、神の箱、仕捧者

2歴 1: ソロモンの夢、知恵を授けらる

ソロモン { 2:-4: 神船を建ておぼゆる
5:-7: 宮が完成して、契約の箱を安置
8:-9: 町を建て、シェバの女王が来る

特に歴代誌の中で王と祭司がイスラエルをどう導いているのかということが記録されています。列王記のほうは王の歴史、歴代誌のほうは祭司の歴史というふうに分けられたりしますが、歴代誌のほうは王と祭司がいつも一緒に出てきて、神殿でどうなっているのか、神殿が捧げられているとか、天幕で歌を歌うとかいうようなことがずっと記録されています。

その記録の中でのダビデとソロモンの働き、それを特に9章に（書かれています）。父ダビデとその子ソロモンの働きの支配のことを歴史と一緒に、72篇と歴史・歴代誌の中に出てくるものを一緒に見ると、なるほど72篇はダビデとソロモンに与えられた民を治める責任が民を正しく治める知恵のある王様が与えられたのだということがよくわかるものだと思います。

17, 19 1歴 14:17 ダビデの名が全地に

1歴 16: (詩105.96.106)

18, 9-11, 19 歌、奇いわざ*3、主にささげよ

・御名の栄光、主にひたれせ、天地海...

18-19

・(主のまがら、イスラエルの神、主、アモン

取上げらる。
・イスラエルの岩
・朝の光、日、雨
・契約の忠実
・神のこぼし

(1312:1-15: ダビデが死ぬ前に
強(あはれ、律法を守らん)

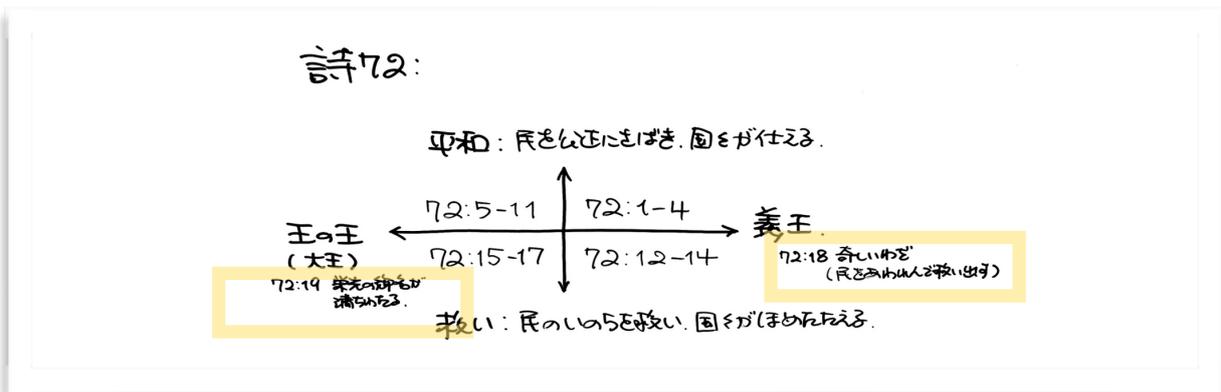
第1歴代誌の16章には、105篇と96篇と106篇が(あとで別れたと思うのですが)その詩篇も入っています。その詩篇の最後のところが、「ほむべきかな。イスラエルの神、主、とこしえからとこしえまで。」奇いわざを行う、主に捧げなさい、御名の栄光というのは72篇にずっと出てくることです。

それで、王様が治める、知恵を与えてくださいと頼む。それは、ダビデが言っています。モーセがヨシュアに言ったように、ダビデはソロモンに知恵が与えられるようにと

あらかじめ祈っています。そのことをわかっていてソロモンは知恵を与えてくださいと頼む。

9-11	1歴18: 異邦の王がみづきさ納めり	YDEN	20
3,7	1歴22:9 安息、平和に与えり。	2歴	1
1-4	22:12 主が、あやむに愚慮と分別を授け、主の律法を守り。	YDEN	2
18-19	29:10- 歌、とこしえに、ほむべきかな、イスラエルの神、主、偉大、力、栄え、栄光、尊厳、富、誉は主のもの、栄光の御名はほむべきかな。 :20 民の応答。	YDEN	5
1-4	2歴1:10- 民をさばく知恵と知識を授けたまへ。		8
1-4	2:11 ヲロム王「主が民を愛し給ひ、王を立たまへ」		
1-19	9: シェバの女王、さしげら、主はほむべきかな、民を愛し給ひ、公正と正義を行きわたせり。		

それが全世界に広がっていつているので、シェバの女王は捧げ物を持っていきます(第2歴代誌9章)。主は、ほむべきかな。民を愛したので王を与えた。公正と正義を行わせるその王が与えられたのはどんなに幸いなのか、というシェバの女王の9章のところに、その成就が現われている。それを全部短く説明してくれているのが72篇です。



72篇を4つの段落に分けられるでしょう。貧しいものを憐れむ義の王であること。その王の支配が全世界に満ちわたる王の王であること。それと、特に民を裁いて国々を従わせるという平和の支配の側と、民のいのちを救って国々が賛美するという救いを賛美するものとに分かれています。

この義の王というほうは、72篇の長いほむべきかな、2巻の最後の長いほむべきかな。奇いわざを行うことと、とこしえに栄光の御名があらわされるというその二つのことが、特に奇いわざ、民を憐れんで救い出すというのは、第一歴代誌16章のところからもわかるように奇いわざということは、そのことをあらわしている。救いのわざ。

それで後半の、それを見た王たちがその栄光の御名が全世界にあらわされているということですので、72篇の「ほむべきかな」の前半と「ほむべきかな」の後半で構成されているということです。

それでここは17節までです。18節と19節は全体のアンカーになっている形の、2巻のまとめであると同時に、72篇のまとめが18節と19節の短い言い方の中にあると分析しましたね。

神殿での祈りについては、第3巻、第4巻と一緒に見なければいけないということは、この歴代誌の概略を覚えておかないといけないということになると思います。

72篇は、父ダビデとその子ソロモンが知恵をもって、愛をもって民を愛し、導いてその栄光がとこしえにあらわされるというメサイアのひな型の詩篇であるということです。